

富士通フロンテックカップ



3/21(木) 22(金) 23(土)



川崎スポーツ

レース展望

3月21日から開催される川崎競輪はF2ナイター。前S級の実力者から、期待の若手レーサーが多く揃い激戦が予想される。今シリーズは遠征勢の参加が無く東日本3地区での争い。

1、2班戦の地元南関東勢は本多哲也(千葉97期)、荒川仁(千葉121期)、栗本武典(千葉119期)の千葉トリオが動いてレースを作れば、地元ホームの三住博昭(神奈川61期)や中井達郎(静岡74期)らにチャンスが巡って来そうだ。戦力が整っているのは北日本勢。総合力上位で

優勝候補の五十嵐綾(福島121期)を中心に、当地好走する印象がある太田将成(宮城113期)や照井力斗(岩手121期)の機動型に、三浦雄大(宮城98期)や明田春喜(北海道89期)らのマーク陣もしっかり。関東ラインの軸は浮島知稀(群馬123期)。めきめきと力を付けており優勝候補の一角。他には数字以上に実力ある植原琢也(埼玉113期)、何でもこなせる小林申太(茨城101期)らと揃う。江連和洋(栃木76期)や浦川尊明(茨城80期)にとっては頼もしい存在となりそうだ。

チャレンジ戦も同様に東日本3地区からのあっせん。優勝候補は山田駿斗(千葉123期)で、ホームバンクの岡寄浩一(神奈川69期)や野口修平(神奈川105期)らが南関東連係からチャンスを待つ。佐藤譲士郎(埼玉123期)と依田翔大(山梨123期)のルーキー2人を擁する関東勢も強力。山田のVに待ったをかける。新人選手のあっせんが無い北日本ラインはやや劣勢か。

若手自力型揃い激しい先行バトル

A級
主力選手



五十嵐綾 福島 121期

前回当地は完全Vを達成しており好相性。主戦法はまくりだが、逃げての末脚も強化されてきているし、柔軟な走りもこなせるのが魅力。更に総合力をアップしていけば、順調にS級へ駆けあがっていくだろう。今シリーズも当地での連勝を伸ばして行きそうだ。

A級
主力選手



浮島知稀 群馬 123期

水泳で培った強靱な体力を生かし、適性試験での入所ながら養成所でもまずまずの成績を残した。自転車の経験は浅いが、高い身体能力とセンスを生かしてデビュー後も活躍を続ける。既に1、2班でも優勝は経験しているし、大器の予感をさせられる期待の新鋭。

A級
主力選手



三住博昭 神奈川 61期

地元ホームの大ベテラン。今期のスタートこそ優出を逃していたが、まだまだ決め脚は健在で展開さえ向けば勝ち切っている。年齢的に状態の波はあるものの、地元戦ではより一走の気迫を見せるタイプ。目標の機動型次第となるが、久々のVを地元で飾りたいところ。



A級
注目選手

山田駿斗 千葉 123期

先に挙げた浮島知稀と同様に適性試験で養成所に合格。陸上競技で鍛え上げた身体能力を武器に在所成績も高かった。まだムラはあるものの、力を出し切りさえすれば特昇班も狙える実力は十分にある。自分のタイミングで仕掛けた時のカマシや捲りの威力は相当。



A級
注目選手

佐藤譲士郎 埼玉 123期

強靱な地脚が武器の先行型。デビュー当初は力が出し切れず苦戦する機会も多かったが、レースに慣れると共に成績もグンとアップ。優勝候補の一角となった。2月小田原では体調不良で決勝進出を逃したが、当地は11月に好走してただけに連日期待できそうだ。

川崎競輪場バンクガイド (2023年10~12月データ)

1年の改修工事を経て、昨年10月からリニューアルした川崎バンク。12月まで363レース(ガールズを含む)を終えた段階の1・2着の決まり手データは表の通り。基本的に構造は旧バンクを踏襲したもので、逃げ・捲り・差し・マークについて、それぞれのパーセンテージは以前と変わりはない。ただし1着に限って言えば、逃げ・捲りの決まり手が54%と過半数越えて、自力型のアタマから組み立てていく車券戦術が可能だろう。川崎名物イエローライン付近の強襲コースは、バンク改修により最終4コーナー走路をスムーズに回ってくるようになり、前団選手の失速が少なくなったため、今のところは出現率がそれほど高くない印象だ。



競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。

【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル